

# 仙台教区報

発行所 カトリック仙台教区事務所  
 980 仙台市本町一丁目2番12号  
 電話〇二二一22一七三七一番  
 編集・発行人 三浦 平三

## 司教、教皇平和メッセージを強調

### 《新しい心》で社会にキリストの平和を！

仙台教区はこの三年間、「家庭から社会にキリストの平和を」を司教目標に掲げてきたが、今年はその最終年にあたる。教区長佐藤千敬司教は年頭書簡「社会にキリストの平和を」を発表、《新しい心》で社会の平和のためにつくすよう全教区民に訴えた。

#### 注目の教皇平和メッセージ

司教目標第一年はキリストの平和をまず家庭に、翌年はさらに小教区教会に実現するようつとめた。キリストの平和とはなにか、という議論もあつたが、司教評議会から「実践の手引き」が配布されたりして、多くの信徒が信仰生活の中にキリストの平和を実践するよう心がけてきた。この二年間の努力は、いわば三年目の今年の、キリストの平和を社会に働きかけるための準備ということが出来よう。そしてこの最終年の司教目標こそは、教会の使命そのもの、私たち信者一人ひとりの使命そのものである。

司教書簡は私たちに、ひとつの重大なこと

### を気づかせてくれる。教皇ヨハネ・パウロ二世の平和の日（1月1日）メッセージ、「新しい心から平和は生まれる」への注目である（メッセージ全訳はまだないし、1月15日付のカトリック新聞は概要紹介だけ）。司教はキリストの平和を実現すべき私たちに、きわめてふさわしい指針になるものとして、メッセージの要点を詳しく伝えた。仙台教区的全信者が、司教書簡に示されている教皇メッセージの要点を読みとり、具体的な平和のための実践につとめるようにしよう。読むだけでなく、指針として実践することである。

#### 新しい心が平和を生む

教皇メッセージ「新しい心から平和が生まれる」は、私たち一人ひとりが自分の内心を変え、真実に愛に満たされた心を持つことが、平和をつくる第一歩だといふのである。もちろんここでいわれる平和とは、心の安らぎとか、家庭内や小教区教会内のもめごとのない状態だけにとどまらず、一国の平和、

全世界の平和にも結びつくものである。物質万能主義からの解放、精神の自由、謙遜になる勇氣、人権の尊重、正義の実現、平等のため連帯、相互信頼、それらが新しい心をつくるものといわれるが、私の心はどれほど新しくなっているだろうか。

#### まず私の心を変えよう

結局、司教年頭書簡、教皇平和の日メッセージにおいて私たちにのぞまれたことは、私たち信者の一人ひとりが回心して、新しい心にならなければならない。全世界の平和といふ大きな問題から見ると些細なことにはすぎないが、それが最も根本的な、強力な平和実現への道だということである。他人や社会はどうであれ、まず私が回心してということでもある。

地域社会や職場、学校、友だちづき合いなどあらゆる場がキリストの証しの場になる。そのためにならなければならぬのである。

#### 司教日程（1月21日現在）

- 2月6日 教区司祭団役員会（仙台）
- 8日 難民定住促進対策委員会（東京）
- 9日 常任司教委員会（東京）
- 10日 カリタス・ジャパン会議（東京）
- 12日 叙階予定者黙想指導（東京カトリック神学院）
- 24日 スペルマン病院理事会（仙台）
- 27日 教区司祭団月例会（仙台）



### 積極的実践は信者の義務!

四旬節「愛の運動」・本年度方針きまる:



昭和59年度の四旬節「愛の運動」の運動方針が、さきのカリタス・ジャパン全国担当司祭会議で次のようにきまつた。

- ① 期間 四旬節中(3月11日~4月20日)
- ② 運動目標

国内 老人福祉・心身障害者施設援助およびそれら支援活動に対する援助、在日インドシナ難民への援助(日本定住促進援助も含む)

海外 地域開発、医療活動、青少年福祉に対する援助

- ③ 募金目標額 七千万円

④ メッセージの配布 「愛の運動」が真の償いの精神を考える機会となるように、佐藤担当司教のメッセージを全教会に配布して、四旬節に入る前の日曜日に読んでもらうようにする。

⑤ 献金用封筒、貯金箱を例年のように作成して各教会にゆきわたるようにする。



四旬節「愛の運動」は、全信者が果すべき祈りと献金、つまり愛とぎせいの実践。年々認識されてきているが、まだ徹底していませんし積極性もなされる。カリタス・ジャパンが事務を担当しているが、これは司教団が直接呼びかける日本カトリック教会の重大な活

動である。参加してもしなくてもよいというものではなく、四旬節の償いの精神にもつく信者の聖なる責務でもある。佐藤千敬司教が担当司教でもあり、教区でのいつそうの盛り上がりがある。

#### 難民定住促進のための協力

司教年頭書簡にも示されているように、私たちの協力の問題として、インドシナ難民定住促進があります。仙台教区の場合、現在難民キャンプもありませんし、地理的条件から直接に定住にかかわることもありません。協力は間接に財政面での援助が主になります。仙台教区内の小教会、修道院、その他の施設からの援助を是非お願いします。なお献金等は直接に、カリタス・ジャパン宛に、難民定住促進のためとしてお送り下さい。四旬節「愛の運動」の中にも含まれています。特別に難民定住促進のために協力をおねがいいたします。

#### 「光ヶ丘研修所」を

正式名称に:

期待される 施設の活用



これまで旧司教会館とか、旧明けの星荘とか呼び名がまちまちだった東仙台の建物は、

「光ヶ丘研修所」と正式に呼ばれることになった。さる1月9日の教区司祭団役員会で、同施設の整備が話し合われた際にきまつたもの。これを機会に修理改善が進み、積極的に利用されることが期待できる。

同建物は昭和35年に教区司祭の集会や宿泊施設として、司教館敷地に建てられた。その後、利用度が減少したり、地震災害もあり、また老人ホームに改造されるなどして荒れが目立っていた。老人ホーム移転後はその活用が問題になり、取りあえず各種会合に利用してきた。

一方、教区内には研修やその他の会合のための適当な施設をもとめる声もあり、「光ヶ丘研修所」は仙台市内の閑静の地にあつて環境もよく、得難い建物といえる。こうした情勢から教区でも積極的な利用を考え、建物の整備を行うことにしている。

なお、光ヶ丘研修所の使用等については、左記にお問い合せ下さい。

仙台市本町一の二の二二

カトリック仙台司教区事務所

担当・吉田昌民神父

電話〇二二二一七三七七番

#### おねがい

各教会の催し、行事、話題、また信者さんごとの意見、感想、文芸作品など気軽にお寄せ下さい。葉書あるいは電話でも結構です。ぜひ、どうぞ。(教区報編集)

司教さま、おめでとぅ

1月8日霊名のお祝い



1月7日は教区長佐藤千敬司教の霊名(修道名)聖ライムンド・ベニヤフォルの祝日だが、そのお祝いが翌8日主の公現の主日にカテドラルで行われた。午前9時より司教司式のミサには修道女や仙台市内教会の代表も参加、司教総代理三浦平三神父が説教をし、全教区民を代表してお祝いを述べた。

ミサ後は信徒館で祝賀会。例年元寺小路教会の新年会にもあたるので、多勢の信者で立錫の余地もない有様。婦人会心づくしのごちそうをかこみながら、なごやかなひとときをすごした。なお佐藤司教は今年で司教叙階25年(一九五九年4月3日カナダで叙階)、いわゆる銀祝を迎える。さいきは東京での仕事が多くなっているが、健康に留意して仙台

板垣神学生、いよいよ司教に

盛岡・3月20日午前11時より

板垣勤神学生の司教叙階式が、来る3月20日(春分の日)午前11時より盛岡市の四ツ家教会において行われ、教区長・佐藤千敬司教より待望の司教に叙階されることになった。同時に佐藤修神学生の助祭叙階も行われる。最終の叙階準備に入っている両名の為に、神の豊かなお恵みを祈ろう。

教区の責任者としての重責を果されるよう、お祈りしよう。

2週間の練成会終る

参加司教に信徒も協力

「明日の教会を目指して」をテーマに、キリストに生かされた小教区共同体づくりを考える司教、修道者の練成会が、1月8日から21日までの約2週間、東仙台の光ヶ丘研修所で行われた。ちょうど毎日零度以下という厳寒期であったが、若手司教など15人の司教、修道者が熱心に研修に励んだ。この成果は参加者からの報告が予定されているが、司教不在間の主日は信徒でみことばの祭儀を行うなど、かけの協力もあつたようだ。

仙台でエキュメニカルの集い

キリスト教一致祈禱週間

「主の十字架は一致への道」をテーマにして、今年もキリスト教一致祈禱週間(1月18日~25日)に、各地でエキュメニカルな集いが開かれた。仙台では例年のように、カトリック、プロテスタント双方を会場に集会をもつた。1月20日(金)午後7時から元寺小路教会で行われた集会では、東一番丁教会の鈴木広徳牧師が説教(奨励)。24日午後7時から東一番丁教会での集会ではクレメント・ペインター神父が説教した。集会には双方の信徒や修道女らが出席して、教会の一致を熱心に祈った。なお元日の午後2時から、仙台キリスト教連合の新年合同礼拝が、仙台北教会において

同教会菅隆志牧師の司会で行われ、カトリックの笹気直哉神父が説教と祝禱を行った。

3 修道女来日して戦力に

オタワ愛徳修道女会

昨年、山形市に新修道院を開設するなど、活発な動きを見せているオタワ愛徳修道女会(仙台)に、また新しく三人のカナダ人修道女が加わるようになった。そのうちポリン・ブルラン修道女とクロード・ラクルス・イール修道女は約10年ぶりに再びの来日、若いリタ・ラブロス修道女は目下日本語を勉強中で、宣教の大きな力として期待される。

佐藤守也神父

神学院院长に任命

一昨年、モデラートル(養成担当者)として東京カトリック神学院に出身した佐藤守也神父は、前院長早副穰神父の任期満了の後をうけて、さる1月3日付で同神学院の院長に任命された。佐藤神父は仙台市出身、一九七一年9月15日司教叙階、岩手県千厩、一関教会主任司教を経て神学院に出身した。

エレオノール・ラヴォア

一本杉教会主任司教パウロ・ラヴォア神父(ケベック外国宣教会)ご母堂。さる1月5日心不全のため亡くなられた。80歳。急拠カナダに帰国したラヴォア神父によつて同9日葬儀ミサが行われた。15日には一本杉教会において、追悼のミサが捧げられ永遠の安息を祈った。

新教会法解説②  
教える任務と聖化の任務

安井 光雄神父

新法典の中心は、第2巻の「神の民」である。したがって新しい教会像・信徒像を勉強すべきだが、今回はまず教会の教える任務と聖化の任務の若干について見てみよう。

《信徒も説教ができる》

説教の権能は、すべての司祭や助祭にあるが、司教協議会があらかじめ決定する信徒に委ねることができることになった(七七六条)。どういふ場合に行けるかは司教団がこれから指示されることと思われる。禁書目録というのが昔はあつたが、今では第二バチカン公会議の時から廃止されている。教会と聖堂の中で、認可されていない書籍・著作を販売ないし配布することはできないし、聖書・神学・教会法・教会史または信仰・道徳を扱う書物を小・中・高の学校で教科書として使用するには、教会当局の認可が必要である。更に、そのように教科書として使用するのではなく、あるいはまた信仰・道徳に関する著作であるなら、その地の統治権者の判断に従わなければならない(八二七条)。

《聖化の原則》

聖化は典礼を通して実現される。そして秘跡について、一つの原則がある。「カトリックの役務者はカトリック信者のみに、またカトリック信者はカトリックの役務

者のみに」というのがそれである。例外はある。①必要な場合で②靈的利益があり③自己の司牧者にゆるしの秘跡・聖体の秘跡・病者の塗油の秘跡を求めることが物理的にか社会通念上不可能の場合、カトリック以外の役務者から受領ができるし、また逆に、カトリックの役務者は東方教会やそれと同等の条件下の教会の信者に授けることができる(八四四条)。エキュメニズムの精神の現われである。

《洗礼について》

洗礼式はいつでもできるが、通常は主日、できれば復活徹夜祭が望ましい(八五六条)。受洗志願者が大人の場合、①信仰の真理とキリスト者としての義務 ②キリスト教生活を身につけることの2点を忘れず教育すること(八六五条)。両親は、幼児が誕生後数週間内に洗礼を授けられるよう配慮すべきである(八六七条)。代父母は、できるだけ代父一人のみ、または代母一人のみ、またはどちらも一人ずつを立てなければならない(八七二・八七三条)が、その代父母は満一六歳以上であること。ただ司教が他の年齢を定めたときは別(八七四条)。堅信を受け初聖体を終つた者でなければならぬし、受洗者の父母でないことが必要である(同条)。非カトリックの信者は、カトリックの代父母と共にのみか、洗礼の証人としてのみ認められる(同条)。以前は、代父母が靈的親族で婚姻障害になり代子と結婚できなかったが、今では障害でなくなつた。



北国での冬の話はスパイクタイヤ。乾いた舗道をひつ掻いて走り回る騒音もおぞましいが、実際に道路を傷め、粉塵公害の元凶として指弾されている。

大々的に自粛キャンペーンをしても、いまだに追放できないでいるのは、凍結路での安全度が他より高いからという。なるほどそうかも知れない。

しかし仙台の例でスパイクが必要なのはせいぜい三、四回。それとてスピードダウンすれば、チェーンで十分だ。つまり装着車の大半は必要なしにスパイクを履き、公害をひき起していることになる。

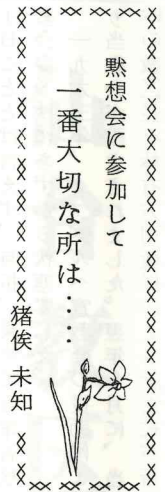
「いざ」となればの安全を考えると弁解するが、「いざ」とならない間は公害のもとでしかないのが問題なのだ。

必要なければ脱ぐ。チェーンを着ける。スピードを落とす。こうしたこと、面倒くささの代償として、スパイク公害があるような気がしてならない。

結局は一人ひとりのドライバーの人心を変えるVことなしに、問題解決はないだろう。多くの人を傷つける「公害」と、自分ひとりの「安易さ」と(決して安全ではない)、どっちが重いのか。そのあたりの認識が、人心を変えるVと思うのだが……。(M)

黙想会に参加して

一番大切な所は：



私は今度で、「新世界」黙想会に参加するの  
が三回目になります。神父様は沢田和夫神父  
様でした。なれたせいかな今回はあまりきんち  
ようもしませんでした。みんなも（私が小さい  
からかな）とても親切にして下さいました。

一日目の夕食後に黙想があり、幼きイエズ  
ス様がマリア様やヨゼフ様におそわつた詩編  
や、また12歳のイエズス様のことなどを沢田  
神父様が私に、わかりやすく、ていねいに教  
えて下さいました。

二日目はすばらしくいい天気でした。黙想  
のあいまの15分ほどの休けいの時間に、大自  
然の中を走っていったり、下の方におりてい  
つたりすると、草花や小鳥たちが私に語りか  
けてくれているようです。しぜんと私の口か  
ら感しゃの言葉がでてきます。

「この世界をおつくりになられた神様、心  
から感しゃします：：」

黙想も今までになく、よくわかりました。

マタイ5章の山上の垂訓

「5章の中でいちばん自分が大切だと思  
う所を考え、見つけてごらん下さい」と神父様  
にいわれ、さがしてみました。さがしてみた  
のはいいんですけど、なかなかわからなくて、  
一か所といわれても、今までわからなかつた

物がいろいろ見えてきて、どれもが大切なこ  
とのように思い、まよってしまいました。そ  
して最後には、45節の「天の父は悪人の上  
にも善人の上にも太陽をのぼらせ、また正しい  
者にも正しくない者にも雨をふらせて下さる  
からである」という所にいちばん、何か大切  
な物を感じてそこになりました。そして、一  
人一人が別々の所を、ここがいちばん大切に  
思う、ということをおかふしぎに感じました。

（西仙台教会・小学五年）

（沢田和夫神父指導・第16回「新世界」  
黙想会。昨年11月19、20日、宮城町で）

### 新しい年が始まる



新しい年が始まりました。  
本当に始まりましたか？  
私にとって、あなたにとって、皆にとって。

町はずれに一人暮らしのおじいさんが住  
んでいました。彼は皆に好かれていまし  
た。人を悪くいうこともありませんし、  
皆に親切で、その暖かい心はその目から  
輝いていました。お正月になりました。  
皆は彼に新年のあいさつをしました。  
みんな「おじいさん、明けましておめでと  
うございます」

おじいさん「あなた達は何を言っているん  
ですか？」

みんな「お正月でしょ。新しい年が始ま  
ったんですよ」

おじいさん「そうかな。本当に新しい年  
が始まったのかな。新しい年が始まると  
いうのは、一つの時代が終り、新しい時  
代が始まるということなんだが」

みんな「それはそうだけど：：」

おじいさん「新しい年、新しい時代が始ま  
るのは、前の時代を終えて、今までの怠  
りを、弱さで犯した欠点や罪を、時に憎  
しみ、ねたみなど、みんな捨てさり、心  
を入れかえて、新しい心で、愛に満ちた  
生活を始める。

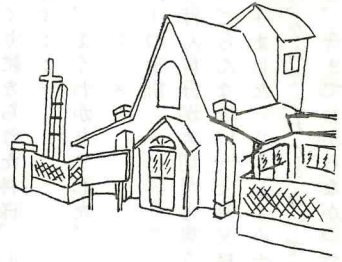
— そのとき、新しい年になる —  
（花巻教会の教会報1月号より）

### 教会報 編集者の皆さまに

皆さまの日頃のご苦労の上に神のお恵み  
をお祈り申します。昨年11月、教区広報担当者  
の集りで各教会の教会報編集者のお話しをお  
聞きしました。教会によっていろいろな教会  
報がつくられています。どこもお金や人材  
の面で苦労されているようです。しかし教会報  
を上手に活用することによって、他のもので  
は果せない大きな力になります。情報伝達だ  
けにとどまらず、記録や資料、そして教会の  
連帯一致に役立ちます。有力な宣教、司牧の  
手段ですので一層のご健闘をお祈りします。

# おらが教会 (40)

福島・喜多方教会



郡山から磐越西線に乗り、会津若松―塩川を経て次の喜多方駅で下車し、北東へ徒歩で約10分の所に喜多方カトリック教会があります。昔、会津盆地の北部に位置するところから北方町と称され、のちに喜多方市と改められたのです。北西には飯豊連峰、東方には小国山、そしてその峰にちよつびり顔をのぞかせている磐梯山、近年「くらのまち」の名で各地から観光客が訪れるようになりました。

この地に教会が設立されたのは、今から約20年前のことでした。教会の敷地の周辺は、田畑や草地在が広々として静かなところでした。会津地区はドミニコ会からグアダルベ宣教会に移管され、喜多方は会津若松教会の巡回地でした。毎月、神父様が信者さん宅でミサを捧げられたり、夏の農繁期や雪の多い冬は主日ごととは言えず、時折、乗物で会津若松教会のミサにあずかる状態でした。

一九六三年、グアダルベ宣教会の援助により当教会が設立されました。翌年5月に、当時の教区長小林有方司教様により献堂式が行

われました。初代の主任司祭として同宣教会のマルティネス神父様をお迎えし、一九六六年には教会の東側に千草幼稚園が設立されました。その頃、幼稚園の少なかった当地では、近辺から入園希望者が多く、信者さんの家庭でも大喜びでした。無原罪修道会のシスターアンニェス様とバラジー様が、次の主任司祭のホセ神父様と、二代にわたりお手伝いくださいました。

信者さん達は、主任司祭やシスターと共に敷地の整備にあたられ、畑など耕したりしました。現在の主任司祭は、三代目のフェデリコ神父様です。

その間、喜多方市の都市計画により教会の北側に道路がつくられることになり、教会の一部の移転と取りこわし作業があつて、現在の御聖堂は当初の半分に縮小されてしまいました。

また、この地区の信者さん達は、広い地域に散在していて、隣り町の塩川、新潟県境に近い野沢(喜多方駅まで車で約一時間)、ヘラブナ釣りで有名な川前なども地区になります。夏は、民宿や農作業などと種々の都合で教会に来られない方が少なくありません。20代30代の若い方々は、高校卒業と同時に他の市町村に移動し、昔からの伝統を守ってられる方が多くみられます。

盆や暮れになると帰省される家庭も多く街も賑わいますが、教会でも御降誕祭や被昇天祭には、ミサにあずかる人で御聖堂一杯になります。普通の主日にも多く集まれたらいい

のに、とつい思つてしまいます。このような現況の中で、神父様はカテキスタやコックさんもおかれず、何もかも一人でなさいます。そしてときどきは、「わたしの奥さん、よろしく」とおつしゃつて洗たく物を洗たく機にお入れになられるお姿がみられます。

多くの人達との親交を深めるための、毎日曜日のミサ後の茶話会もさることながら、降誕祭には、幼稚園の先生や児童と父兄、土曜学校の児童と父兄を招待し、ミサやパーティーに参加して頂いたり、ミニバザーを開き売り上げ金で毎年諸施設から依頼される基金集めをはかつたり、微力ながら親睦の輪を広げる活動のきざしがみられるようになりました。

新年を迎え、手芸の講習会を今から行い、人々の交流と多方面の資金調達準備にとりかかりました。

市内の小学生対象の土曜学校では、宗教と英語の勉強をしています。学年が進むにつれ生活行動の広くなる理由で参加者が少なくするのが今後の課題となりそうです。

(テレビア・S)



## 【編集後記】

新年早々で恐縮な話だが、今年もまたあわただしく過ぎるのだろう。それはやむを得ないことだが、それなりに充実した生活と願わずにはられない。もちろん信仰の面においてである。やはり初心に帰って、信仰のよろこびを感じるものがある。そうしたことを心がけて今年も編集してゆくつもり。(M)